

第6回 津久戸小学校・江戸川小学校統合等検討協議会 議事録

【日時】平成23年1月20日(木) 18:30~20:50

【場所】江戸川小学校 3階 ランチルーム

【出席委員】・津久戸小学校PTA会長 ・津久戸小学校PTA副会長2名
・江戸川小学校PTA会長 ・江戸川小学校PTA副会長2名
・箕筒地区町会連合会代表
・榎地区町会連合会代表 ・榎地区青少年育成委員会代表
・津久戸小学校校長 ・江戸川小学校校長 ・教育委員会事務局次長

【欠席委員】・箕筒地区青少年育成委員会代表

【事務局】 学校適正配置担当副参事、担当主査、担当主事

【学校】 ・津久戸小学校副校長 ・江戸川小学校副校長

【傍聴者】23名

A委員 皆様こんばんは。第6回津久戸小学校・江戸川小学校統合等検討協議会を始めさせていただきます。それでは最初に、会長よりご挨拶をお願いいたします

F委員 皆様、新年明けましておめでとうございます。健やかに新しい年を迎えられましたことをお喜び申し上げます。本日は大寒であり、大変寒い日になりましたが、ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。物足りて心足らず、物溢れて心貧しくという言葉が長年続くような昨今であります。昨年の暮れから「伊達直人」なるタイガーマスクから、北は北海道から南は沖縄地方まで、児童施設に贈り物が届けられるという暖かいニュースがありました。そういう中で、私たちも地域子どもたちや地域の安心安全のために日夜努力をしています。

統合については、前回は江戸川小学校の今後の入学者数を考えると、いつまでも足踏みをしていられないのではないかというお話がございました。どちらの結論を出すにしても、爽やかな決断はできないと思います。苦渋の決断になると思います。「項目別課題等検討シート」を見させていただいても、統合をした場合の課題は、たくさん書いてありますが、量で圧倒されるのではなく中身を見ますと、なんとかみんなで頑張れば解決できるのではないかと思います。一方で、統合しなかった場合は、課題等が少ないように見えますが、よくよく考えてじっくり見ますと、こちらの課題のほうが大きいのかなと思うものもあります。今日すぐに結論を出すということではないのですが、両者をよく考えて、なるべく良い形で合意形成ができればよいと思っております。やはりそのためには、PTA、地域、学校の努力が必要です。しかしその努力をしても、どうしても埋められない部分が出てくると思います。そこを教育委員会として、どんな見解をもって、どんな対応をしていただけるのか、その点についても今日はお伺いさせていただき、じっくり考えたうえで、次回または次々回に結論を出していかなければいけないと思っております。

テレビで、いま学校では校長先生や副校長先生は親御さんの対応で大変だということを言っていました。そうではなくて、校長先生方がじっくり子どもたちと関われる落ち着いた学校であり、地域であり、保護者であってほしいと思っています。そういうことも含めて、これからいろいろと考えていかなければいけないと思っています。是非今日はみなさんのご意見を伺わせていただき、教育委員会の見解もお話しいただきたいと思っています。ただ、すべて教育委員会の見解でということではなく、こちらも要望していかなければいけないこともあると思いますし、教育委員会もすべてに対し即答できるものでもないと思っています。両者でよく話し合い、どのような方向性に行くのか考えていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

A委員 ありがとうございます。(江戸川小学校の書初め展を見ると)6年生は、『夢の実現』と書いていますが、是非皆さんの夢の実現をしていきたいと思っています。今日はたくさんの方の方にたくさん発言をしていただきたいと思っていますので、是非一回の発言は短めに簡潔をお願いいたします。

早速ですが、本日の議事は、次第に書いてありますとおり、(1)現状の共通認識及び課題・解決策(案)の検討について、(2)次回以降の日程等についてです。前回からの流れで、皆様のご協力もあり、事務局にお作りいただいたシートの議論から始めていきたいと考えております。最初に事務局から資料の説明、具体的なシートの内容についてご説明いただきたいと思っています。

事務局 それではお手元にお配りしました、「項目別課題等想定シート」についてご説明させていただきます。前回第5回協議会において、PTAが作成したものと、地域と事務局が作成したものを比較して、内容が共通するものをまとめたものが、本日配付資料の1枚目です。そのうえで、現状の共通認識を図る必要があるということで、シート1枚目の上段に、「現状の共通認識」を、3点まとめました。1点目は「江戸川小において、児童数のさらなる減少が懸念される。」これは、PTA作成版にそのまま書いてある項目です。2点目は「本協議会が長期化するほど、江戸川小の児童数が減少するリスクが高まる。」これは前回の議論を踏まえたものです。3点目は「(近年の両校の通学区域内の未就学児)数の増大、35人学級の導入。」これは、今まで資料等で説明してきたところです。以上の3点を総合的に考えたときに、「早期に統合の必要性の有無について、合意形成を図ることが必要。」であるということについて、まず共通認識として、皆様と共有したいと考えています。

次に、下段の表についてですが、「統合した場合」「統合なかった場合」と「達成できること」「課題・懸念事項」「改善策・解決策」があります。これは、先ほど申し上げたとおり、PTA作成版と地域・事務局作成版の共通する部分を抽出したものです。この中で、共通している「課題・懸念事項」に対しての「改善策・解決策」が記載されています。これはPTA作成シートから持ってきたものです。この部分について、色分けがされていますが、これは書かれている「改善策・解決策」が実際に対応できるのかどうかについて、事務局のほうで色分けをさせていただきました。たとえば、統合した場合の一番上、「現在より通学距離が

長くなる児童が出てくる」という「課題・懸念事項」に対し、PTAからは「通学の安全性を確保するため、交通標識・歩道・ガードレール・信号・歩道橋などを増設する。」という「改善策・解決策」を挙げていただきました。これら全部に対応することは難しいですが、部分的には対応可能なのではないかとということで『緑』に色を付けています。資料の右下に色分けの説明を記載しています。特に、『赤』に色が付けられているものについては、協議会において論点になりうるのではないかとと思われるものです。たとえば、「統合した場合」の施設面の課題に対する改善策の部分で、『赤』で「長期的には児童数の減少が予想されるので、それまで統合を延期する。早期に統合するとすれば、暫定的にプレハブ校舎を建設する。」と書かれています。これについては、プレハブの校舎が果たして良いのかどうか、協議会の中で議論して考えていきたいと思う部分です。また、「統合しなかった場合」の欄は、項目が多いためまとめて記載いたしましたので、詳細については2枚目以降をご覧くださいと思いますが、「江戸川小学校の特色のアピール」も考えなくてはいけない中で、できることはあるのではないかとということで『緑』にしています。また「大規模校と小規模校の格差是正」や「学校選択制の部分的又は全体的な見直し」は『赤』になっていますが、これらは協議会で論点になりうるということです。この1枚目に書いてある内容が、PTAと地域・事務局の共通する認識ですので、合意形成が可能な項目なのではないかと考えております。

次に、2枚目以降ですが、これは前回第5回協議会において、それぞれPTAと地域・事務局が作成したシートを合わせたものです。その中で、「解決策・改善策」を事務局で色分けしたものです。下線が引いてあるものについては、1枚目の共通項目に載せてあるものです。そのようにご覧いただければと思います。資料の説明は以上です。

A委員 ありがとうございます。前回、事務局にクリスマスプレゼントとお願いしたものを出していただきました。まず、いまご説明があったところで、最初に、「現状の共通認識」について、皆様の共通認識であるということだけは確認しておきたいと思います。この「現状の共通認識」について、何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

一同（意見なし）

A委員 それでは、この「現状の共通認識」として、3点があり、「早期に統合の必要性の有無について、合意形成を図る必要がある。」ということは、皆様も同じお考えであるということをお前提として、いまから議論に入りたいと思います。それでは、「項目別課題等想定シート」をベースに議論いただきたいと思いますが、このシートに書いてあること、書いていないこと、その他、ご意見がある方はお願いします。

B委員 このようにいろいろ書いてあると、私自身も迷ってしまうところもあります。一概にどうすべきなのか判断できないという思いです。

A委員 それは皆様も同じ気持ちであると思います。

D委員 「項目別課題等想定シート」を見ると、「統合する場合」と「統合しない場合」に分け、項目がきれいにまとまっていると思います。両方とも、「達成できること」もあれば、「課題」が残るところもあります。ですから、最初に会長がおっしゃったとおり、爽やかな判断は難

しく、苦渋の判断になるだろうと思います。その苦渋の部分については、「統合する場合」も「統合しない場合」も大きな悩みどころが一つずつあると思います。「統合する場合」では、未就学児数が増大し、かつ、35人学級の導入の可能性がある中で、新校舎を作るとしても、長期的に見て、どのくらいの規模で、どのくらいの教室数が必要なのかが判然としません。600名規模も想定すると、高層の校舎に、狭隘な校庭となる可能性があります。また、新校舎を建設している期間、プレハブ校舎で過ごすことになった場合、教育環境を逆に悪くする懸念があります。反対に、「統合をしない場合」、現状に対し抜本的な対策を講じないと、江戸川小学校の児童数がさらに減少する可能性があります。ですから、両方とも大きな課題を抱えています。その中で、どのような判断をするか、おっしゃるとおり悩みどころであると思います。

J委員 仮に統合した場合、仮校舎の時に、環境があまり良くないという理由で、それぞれの学校から違う学校に行ってしまう人も出てくるかもしれません。その結果、バラバラになってしまうようなことは避けなければいけないと思っています。統合して、児童数が増えたときに、どのような環境になるかということが、D委員さんと同じく、一番心配しているところなので、その点については話し合っていきたいと思います。

A委員 児童数がしばらく増えている中で、仮に統合した時の新校舎はしっかりと考えなくてはいけないということですね。

J委員 はい。また統合すると、児童数が多すぎるから統合になる前に違う学校に転校してしまう人が出てきて、子どもたちがバラバラになってしまうこともとても心配しています。そのようにはならないでほしいと思っています。

H委員 資料の中に（基礎資料集の）資料3が配付されていて、牛込地区の通学区域内の年齢別の人数が出ています。これを見ると、江戸川小学区域には来年度の新一年生（現在の5歳）は31人いますが、実際に江戸川小学校に（就学前の）健康診断に来たのが8人でした。4歳～0歳の人数を見ても、4歳46人、3歳が58人、2歳が49人、1歳が57人、0歳が52人と、この地域には子どもがいるということがこの資料3で分かります。この地域の子どもたちが江戸川小学校に来れば、十分2学級が編制できる人数がいるのに、地域の子どもが入学してこないということが、私はいつもどうなのかと思っています。また、共通認識の3つ目の、35人学級の導入がされたときに、市谷小学校や早稲田小学校は75人を超える年齢もあり、3クラス以上になる可能性もあります。そこに津久戸小学校と江戸川小学校が統合したら、市谷小や早稲田小よりも大きな学校になる可能性もあります。新宿区の中で、大きな学校が牛込A地区に3校もできてしまうような偏りが生じてしまうのもどうかと思います。

E委員 「早期に合意形成を図る」ということですが、「早期」とはいつ頃を考えているのでしょうか。この協議会で、統合するかしないかの結論が出た後には、協議会が幕を閉じなくてはいけないのかと心配しています。結論が出る前に、ソフトの部分もしっかり検討して、いろいろな観点で話し合った後、慎重に方向性を考えていきたいと思っています。ですので、「早期」について、ある程度お考えのスケジュールがあるのであれば、最初に確認したいと思うので

すが、いかがでしょうか。

A委員 配付資料にも今後の日程案が出ているので、スケジュールについてお話しいたします。今までの協議会での議論では、平成24年度入学予定のご家庭に向けた案内が、6月に出るので、その時にどのような発信をするのが重要だということが、協議会での概ねの共通認識であったと思います。それをベースにスケジュールを遡って考えていくことになると思います。まず事務局から、6月の学校説明会に間に合うように考えた場合、いつ頃までに、ある程度の方向性が決まっていなくてはいけないということがあれば教えていただきたいと思います。

事務局 配付資料として、『統合等検討協議会開催日程表（1月20日現在）及び今後のスケジュール予定』があると思います。これについて、事務的な見解でお話しいたします。

まず、資料上段の第7回、第8回の日程案ですが、今までの流れで毎月第3木曜日ということで設定させていただいていました。2月と3月については、現在仮決定とさせていただいていたかと思いますが、事務局としては是非この日程までは本日決定していただきたいと思っています。そのうえで、4月以降については、あくまで予定にすぎませんが、同じように第3木曜日と設定すると資料中段のような日程になるかと思っています。

このこともお含み置きたいといううえで、資料下段の「今後のスケジュール予定」をご覧ください。前提として、両校PTA会長から、最終的に統合の必要性を決めるにあたっては、保護者の皆様に趣旨を説明するなり、何らかの形で手続きをする必要があるというお話をいただいております。PTA総会等の日程も教えていただきました。それらを踏まえて作成したのが、「今後のスケジュール予定」です。

これについてご説明しますと、本日が1月20日で第6回協議会を開催しています。今日の協議会で何らかの方向性が出れば、2月17日の第7回協議会で、ある程度の文書化をする必要があると思います。次回協議会で文書（案）が出せた場合に、その文書（案）で仮に協議会で了承がとれたとすると、両校PTAの意思決定の手続きをすることになると思います。津久戸小学校の場合、2月15日にPTA実行委員会があるということですが、協議会のほうが後の開催になってしまうので、3月4日のPTA実行委員会を経て15日のPTA総会で意思決定のプロセスが踏めるのではないかと思います。一方で江戸川小学校の場合は、同じように2月にPTA運営委員会のメンバーに情報提供すると聞いています。日程・方法についてはいまの時点では聞いておりませんが、PTA総会の予定が2月25日ということなので、逆算すると、来月の協議会において、協議会としての総意に近い合意ができれば、江戸川小学校のPTA総会で何らかの形で意思決定を図っていくことになるかと思っています。

そのような手続きを経て、両校の意思決定の結果を踏まえて3月17日の第8回協議会を開催します。第8回協議会で総意による合意形成を図ることができれば、そこで一つの方向性を出すことができます。もし合意形成が図れなかった場合、4月以降になっていくことになります。新一年生向けの学校説明会やPTA役員の改選、早期に合意形成を図る、ということ考えると、この年度末のPTA総会に諮るのが一つのポイントになるだろうと考えてい

ます。そのうえで、3月の協議会で合意ができるか、遅くとも4月に合意ができるか、ということになるかと思えます。これが5月以降になってしまうと、6月（の学校説明会）には間に合わないのではないかとこのところが、事務局で考えているスケジュールのイメージです。以上です。

A委員 教育委員会としては4月がデッドラインということですね。

事務局 そのようにしたほうが良いのではないかと思います。

A委員 そうすれば、役所の中での手続きを含めて、6月の学校説明会で正式なコメントができるということですね。

事務局 その可能性が高いと思っています。

A委員 わかりました。一方で、学校側の手続きについても少しお話しいただきましたが、学校側としてどのように物事を決めていこうと考えているのかD委員さんからお話しいただけませんか。

D委員 江戸川小学校を例にしてお話しします。2年前にも同じようなプロセスがありました。PTAの意見をまとめる場所はPTA総会になります。PTA総会は年に2回ほど開催され、次の総会は2月25日の予定です。PTA総会にかかる議題や資料の案は、事前にPTAの役員会である運営委員会にかかる必要があります。そこで議題や資料をオーソライズした後、各保護者に関係資料を配付し、PTA総会を迎えることになります。資料は最低でも一週間前には配付することになっています。それを考えると、PTA総会が2月25日の予定ですので、その一週間前である2月18日には運営委員会の了承を得て、各保護者に資料を配付するというスケジュールになります。ただ、江戸川小学校のことについてだけ言えば、運営委員会を毎月開催しているわけではありませんので、運営委員会のメンバーにメールで議題や資料をご了解いただくことを想定しています。運営委員会を実際に開かなくても、手続きは可能だろうと考えています。

A委員 津久戸小学校も基本的には同じ考えですが、その一歩手前の話として、私たちはPTAから協議会委員として出てきていますが、各保護者から全権委任されているという感覚は持っていません。全権委任されているというよりは、協議会での議論が進んで行く中で、全保護者と会話しながら、今の状況を保護者に伝えながら、保護者の考え方も聞きながら進めていきたいと考えております。従来から、「この協議会で重要な意思決定をする場合は保護者の皆さんに必ず諮る」ということをお約束して、この協議会に出てきています。したがって、特に地域の皆様は違和感を感じられるところもあると思いますが、我々の進め方としては、大きな意思決定をする際には、保護者の皆さんにも意見を聞いて、具体的には過半数以上の賛同を得られることを前提に、この協議会での同意をしていかなければいけないと考えています。そのため、このようなスケジュールを書かせていただいています。津久戸小学校のPTA総会も、年2回予定されているうちの1回が、ちょうど3月15日にあります。第8回協議会の直前ということで良いタイミングであると思っています。ただ、もちろん3月の協議会で決まらない可能性もあると思います。その場合、今から話すのも気が早いかもしれ

ませんが、多くの保護者の方の合意があれば、臨時のPTA総会を開催することも可能ですので、その中で学校の保護者の意見を十分に吸いあげながら進めていきたいと思っております。ご理解をよろしくお願いします。

E委員 ご説明いただき、ありがとうございます。共通認識として、「早期に合意形成を図る」ということですが、そのメリットとしては、現状の共通認識に2点目の「本協議会が長期化するほど、江戸川小の児童数が減少するリスクが高まる」ことを抑えることだと思います。仮に、統合するという方向性になる場合には、もっと議論を深めることは可能なのでしょうか。

D委員 6月の新一年生向けの学校説明会までに方向性を示すことが大きな目標になっていると思います。その学校説明会で、「統合はしない」ということが示されれば大きなアナウンスメント効果があると思います。「統合をする」可能性があるということは、前から言われていたことなので、「統合をする」という方向性の場合、大きなアナウンスメント効果はないと理解しています。そういう意味では、私の個人的な意見ですが、「統合をする」という方向性になった場合には、4月のデッドラインはもう少し延びる可能性もあると思います。

E委員 それでは、(結論の) 期限を決めるという形ではなく議論しても良いということでしょうか。

A委員 そういうことではなく、やはり今は、このスケジュールに乗って進めていこうという話ですので、ある程度その期限を目標にしていこうということだと思います。

E委員 どうしてもその日に決定しなくてはいけないということではないですよ。D委員さんがおっしゃったように、議論のなかで延長することもあるけれど、このスケジュールを目標にしたうえで方向性を決めていきたい、という認識でよろしいのでしょうか。性格上、日にちが決まっていると焦ってしまうので、そこの点を確認したいと思います。

D委員 たしかにスケジュールありきで物事を拙速に決めるのは良くないと思います。どちらになるにしても、きちんと議論すべきことは議論をしたいと思います。なおかつ、結果だけではなく、どちらの結論をとるにしても、課題があるので、その解決策を検討しなくてはならないと思います。その課題について、本当に解決できるのか、ということも含めて議論をして、方向性を決めていくのだと思います。その流れが、スケジュールに乗ればなおさら良いという認識だと思います。

E委員 わかりました。

F委員 皆様がおっしゃっているように、どちらの方向性に決まっても、課題はたくさん出てくると思います。ですから、方向性が決まったら協議会が終わるということではなく、課題についても検討したいと思います。数字の上では子どもの数が増えています。この人数がそのまま学校の児童数に反映するかどうか、それが心配なところです。その中で、35人学級の話が浮き上がってきて、平成20年の牛込地区学校適正配置に関する懇談会のときからだいぶ状況が変わってきています。35人学級を維持して、なおかつ校舎内に人数を溢れさせないようにするにはどうしたらよいか、ということも大きな問題になると思います。地域の子どもの数が増えている、この人数が実際に津久戸小学校、江戸川小学校の児童数に当てはまる

のか、今後の児童数の推移は実際には読めません。親御さんのお考えもありますので、絶対にこの学校に行ってくださいとも言えません。後ほど教育委員会の見解もお聞かせいただきたいと思いますが、現状のままですと学校選択制があれば子どもが流れてしまうこともあると思いますし、児童数を均一化するのも簡単にできる問題ではありません。それならば学区域を見直せばよいのではないか、ということですが、これはもっと難しい問題になってくるかと思います。そういうことを含めて、統合の方向性がある程度出ても、そこでこの協議会が終わりということではなく、もう少し皆さんで話し合っ、教育委員会にも要望しなくてはいけないこともたくさん出てくると思います。皆さんのご苦勞をおかけしますが、方向性が出たからと言って協議会が終わりという形にしないでほしいと思っています。方向性出ても課題は山積みだと思しますので、そのあたりをきちんとお話ししていかないと、またすぐこの問題が浮き上がってきてしまい、それでは（今回の結論が）何にもならないと思います。ですから、できるだけ長いスパンで「統合しない」ならしないで、江戸川小学校が継続できる形になるように、「統合する」ならするで、課題をどうすればクリアできるのか、それを皆さんで深く考えて話し合っ、いかなくてはいけないと思います。

I 委員 F委員さんがおっしゃったことと、ほとんど同じなのですが、配付資料の「項目別課題等想定シート」を見ると、どちらの方向にしてもいろいろ解決策が書いてあります。さきほどE委員さんが心配されていたように、たとえば「統合する」と決まっても、その先にいろいろな課題がありますし、その逆の場合も同様です。この表には、行政に求めていくことや達成目標などが書いてありますが、この協議会で何らかの方向性が出て、提言をもって、この協議会が終わった場合、行政に要望したことを達成できているのかできていないのかを誰が見守っていくのかということが心配です。現役の保護者や学校関係者の方が見ていくのはもちろんですが、結果はすぐに見えてきません。たとえば、6月に方向性を広報したとして、その結果で見えてくるのは、その半年くらい先です。その結果や成果をどのような形で見ていくのかということを見ると、今回方向性を出して、その後のこともこの場で話し合っ、ある程度の確証を得ないと、方向性はこれで良いと言えないと思います。（この問題が）繰り返し出てきてしまうのは困るので、責任を持って話をしていきたいと思っています。ですから、「統合しない」場合には、6月にアナウンスをするために4月が期限ということですが、それはある意味チャンスだと思います。方向性が出た先のことへの提言は大切であると思いますし、それに関わる何かを作っ、いったほうが、建設的で実現可能になるのではないかと考えています。

A 委員 先ほど、E委員さんがおっしゃっていた「ソフト」というのは、いまF委員さんやI委員さんがおっしゃったようなことですね。

E 委員 そうです。統合してもしなくても、未来の学校のために、どういう学校がみんなが望むものなのか、というところまで携わっ、いければ良いと思います。

A 委員 何かしらの結論が出たら協議会が終了するという事ではないですね、ということですね。

E委員 はい。

A委員 先ほど、D委員さんがおっしゃっていたように、「統合しない」という方向性にした場合は、6月の学校説明会を目標にするというのは具体的なスケジュールだと思います。最初に皆様に伺った共通認識ということで考えると、統合の必要性の「有無」について、早期に合意形成を図るということですので、「統合する」と決めるにしても、できるだけ早く不安定な状況から脱することが必要だと思います。「統合しない」なら6月、「統合する」ならいつ、というよりも、どちらに決まるにしても、ある程度の（期限を）目標にするという気持ちで進み始めるということについては、皆さんにもご了解いただけるのではないかと思います。

いまスケジュールについてのお話が出ていますが、その他「項目別課題等想定シート」について、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

B委員 「統合した場合」の課題・懸念事項のところ、「35人学級が導入されると、仮校舎に入りきらない（校庭にプレハブなど）恐れがある」とありますが、これは35人学級になった場合は、必ずプレハブ校舎を建てるということが、教育委員会の中で決まっていることなのですか。

事務局 結論から申し上げますと、プレハブ校舎を建てると決めているということではありません。人口統計から35人学級が導入された場合を想定すると、プレハブ校舎になる可能性は非常に高いと考えております。ただし、将来のことですので、何が起きるかわかりませんので、絶対に建てると断言することはできません。一方で、プレハブを建てるとなると、一般の手続きとは別の手続きが建築基準法上必要な場合があります。そうすると、手続き的に煩雑になるぶん、ある程度の時期に決めなくてはいけないということがあります。ですから、意思決定した結果、プレハブ校舎を建て始めたものの児童数が増えない場合や、反対に児童数は増えないだろうと見込んでプレハブ校舎を建てないでいたら、予想以上に増えてしまって間に合わなくなる、ということもあり得ます。いずれにしてもリスクはあるということでご認識いただければ良いと思います。

G委員 6月に結論を出すということですが、それは何のためかという、来年の児童数募集のためということですね。以前お話ししましたが、今のままで江戸川小学校の児童数の増員対策はできないか、ということをお話したいと思っています。また、児童を増やすためにはよほどの対策をしないと急に増やすことは難しいと思います。統合する、統合しないのどちらにしても、痛みはあると思います。4月までに結論を出さないと6月の新一年生向け学校説明会に間に合わないということですから、もし「統合しない」という結論であれば、早くして統合対象校から外さなくてはならないと思います。また「統合する」ということなら、ゆっくり時間をかけて話し合わない、いろいろな問題があると思います。35人学級の動向も決まっていればある程度考えられますが、いまは見当もつかない状況です。ですから、いずれにしても、学校説明会の期限ということだけならば、もう少し時間をかけて考えるべきだと思います。

J委員 江戸川小学校の児童数が増えない原因として、児童数が少ないということがあると思っ

ています。しかし、人数が少ないことはすべてにおいて教育環境が悪いということはありません。たとえば、大きな学校の中ではすべての子が切磋琢磨できるわけではありません。積極的ではない子や大きな学校で対応できない子たちは、小さい学校ではとても丁寧に見てもらえます。そういう意味では、大きな学校だけではなく、小さい学校にも必要性を感じています。人数が少ないからといって、すべてにおいて教育環境が悪いということではないということを感じていただければと思います。

G委員 以前もJ委員さんはそのようなご意見をおっしゃっていましたよね。私は学校は勉強だけがすべてではないと思っています。文武両道で、スポーツもチームを作れるような人数がいれば違った切磋琢磨ができることもあるので、大きいほうが良いと思うところはあります。ただ、私も小さい学校がすべて悪いとは思っていません。勉強などは手をかけてもらえるので良いと思いますが、スポーツなどは人数がいたほうが、いろんな人と切磋琢磨できるのではないかと考えています。

J委員 私は大きな学校に通っていましたが、40人くらいの人数だと、かえってグループになってしまい、グループ以外の子とはなかなか遊べなかったり、グループから外れてしまうといじめられたりしてしまうこともあったので、逆にたくさんの子と触れ合うことができない子もいたりします。少ない学校だと、15人くらいしかいないですが、1年生、2年生の時に合わない子がいて喧嘩をすることもあります。少人数だとグループを作ることもできないので、6年生になるまでに、どうすれば合わない子と仲良くできるかを考えて仲良くなります。そうすると中学生になって大人数の中に入ってもいろいろな子と付き合うことができるというメリットは伝えたいと思います。

G委員 それは分かります。しかし一方で、大勢のメリットもありますよね。

J委員 はい。

A委員 話が戻ってしまいますが、先ほどG委員さんから「統合しない」と決めるにしてももう少し時間をかけたほうが良いのではないか、というご意見がありました。6月の学校説明会を目標にするという話がずいぶん前から出ていますが、それについてはいかがですか。

D委員 江戸川小学校の学区域には236名の小学生が住んでいるのに、実際には80名を切る人数しか江戸川小学校に来ていません荒れている学校でもなく、人数以外は他校と何ら変わりありません。そういうことを考えると、学校教育の内容や質以外にもいろいろな課題があるのだらうと思います。いわゆる風評もあるのだらうと思います。それを考えると、来年度以降の子どもたちに地域の学校に来てもらうためにも、6月の学校説明会には新たな情報を発信し、未就学児の保護者の皆さんにも今までと違うメッセージを伝えたらありがたいと考えています。G委員さんがおっしゃっているのは、具体的にどうしていくのか、という部分だと思います。事務局に編集していただいた「項目別課題等想定シート」では、省略されてしまいましたが、解決策・改善策のところでは「江戸川小の特色のアピール」、「江戸川小の新たな特色づくり」、そして学校・PTA・地域だけではできないこと、行政にお願いしたいこととして、「制度変更など」と、3つに分けて書いてあります。各項目について、私たちでも何

かできることはないか頭を悩まし、今まで以上に内容を膨らませています。お示したら笑われてしまいそうなものまで集めて、少しずつ増やしております。そういう中で、私たちPTAができる新たな特色づくりについて、どこかでお示して議論を深めたいと思っています。また、行政にお願いしたいことも少しずつまとめていますので、それについても同様に議論を深めることができればと思っています。

A委員 やはり6月には明確な意思表示ができれば、効果があるだろうとお考えということですね。

M委員 江戸川小学校は年々児童数が減ってきているのですが、統合対象校になってからは減少の度合いが大きくなりました。(減っている)原因はいろいろありますが、1学年10人くらいの人数では子どもにとって良くないのではないかと、江戸川小学校には幼稚園がないので他の幼稚園からの繋がりを切ってまで江戸川小学校を選ぶということの決断ができない、学校選択制があることで他の学校に流れてしまっている状態です。「統合する」と決まれば、その方向で良い形を考えていけると思いますが、「統合しない」となった場合に、統合対象校から外しただけではここまで児童数が減少してきたのを止めることができない状態になっていると思います。ですから、G委員さんがおっしゃったように、具体的な対応策を考えたいという結論を出していかなければいけないと思います。

子どもが少ないと、子どもの環境が良くないのではないかとというマイナスイメージが強いと思うのですが、江戸川小学校にいる子どもたちを見て、いろいろな能力を伸ばせているというのは確かだと思います。体力面でいうと、水泳では平泳ぎとクロールの両方とも25m以上泳げる子が校内で60%以上います。中でも、37%の子は300m泳げます。少ない人数だからこそ、たくさん泳ぐ機会があり、その中で能力を伸ばすことができているという良い面があります。また、学力については、東京都の学力調査でも国語も算数も東京都の平均、新宿区の平均よりも上であり、学力面でも落ちてはいません。算数の思考力といって、これから子どもたちにつけたい力と言われている項目については、東京都の平均より15ポイント上です。これは100点満点で数えていないのでポイントという言い方になるのですが、そのくらい力がついているという結果は出ています。ですから、今の江戸川小学校においては、小さい学校だからいろいろな面が駄目なのではないかという考えを何とか変えていただきたいという思いがあります。もし次回にでも、江戸川小学校の子どもたちについてアピールさせていただける時間があればしたいと思っています。

F委員 先生方のご努力が大きいのだと感じます。児童数が少ない中で、何とか大きくしようとする、先生方の努力やPTAの方の努力が合致して、そのような結果になったのだと思います。江戸川小学校だけではなく、新宿区の学校は特色ある学校としてどの学校も頑張っていると思います。そういう中で、少人数の良さも分かりますし、少人数ではかわいそうかなと思う面もありますし、いくら少人数でももう少し人数がほしいというのが現状だと思います。そういう中で、もし統合しないとしたら、どうすれば人数が増やせるかを考えなくてはならないと思います。これは冒頭で申し上げたとおり、PTAや学校、地域だけの努力では

どうにもならないこともあるので、やはり教育委員会がある程度の姿勢を示していただかないといけないと思います。ですから、もし統合しないということになったら、それについてはきちんと要望していかなければいけないと考えています。

E委員 提案なのですが、私は津久戸小学校の授業参観しか行ったことがありません。前回の傍聴者アンケートを拝見させていただいたのですが、その中に「協議会の委員の皆さんで、津久戸小学校、江戸川小学校、そして大規模校である市谷小学校や早稲田小学校の見学をしたらどうか」というご意見がありました。やはり大事なことを決定する私たちですので、是非現場に足を運んで、本当に子どもたちがどういう教育を受けているか拝見したいと思いました。皆様お忙しいスケジュールだとは思いますが、希望者を募ってでも、現場を見たくうえで確実な提案をしていきたいと思っています。いかがでしょうか。

B委員 いまは学校選択制があるので、保護者の方はどこの学校が良いか歩いていると思います。その中で、自分の子どもの学校を決めているのだらうと思います。私たちが現場を見に行くというよりは、新生児の父兄の方々に実際に見てもらったほうが良いのではないかと思います。議論するのは構いませんが、そのほうが効果的なのではないかと思います。

A委員 参観の日程等は皆様にお伝えするような形にさせていただいて、日程が合わなくても学校はいつでも見られると思います。

F委員 いまは学校公開日が4～5日間くらい設定されていますよね。私もご案内をいただいて、江戸川小、早稲田小、市谷小、鶴巻小を見て歩いています。

E委員 結論を出さなくてはいけない日にちがある程度出ているので、是非見ていただければと思います。自宅から近いからとか、母校だからという理由でしか津久戸小学校を選んでいないひともいますので、ぜひ（学校公開日）を明記していただきたいと思います。

I委員 それは、私たちが方向性を出していくうえで（ほかの学校を）見学してはどうかということですね。できれば、協議会委員がいろんな学校を見学に行ったということもどこかで広報していければと思います。以前ゲストスピーカーで菅野さんに、大規模校の校庭の使い方や大きな学校なりの工夫など、私の知らないことを話していただきました。同様に、小さい学校にもいろいろな特色や工夫があるのかと思います。この学校だけアピールしてしまうと、逆に強調しているように見られてしまう可能性もあるので、E委員さんがおっしゃったように、牛込A地区のいろいろな学校を見て、良い悪いではなく、自分たちの判断材料にするのは良いと思います。ただ、スケジュール的にはかなりタイトですので、タイミングは難しいかもしれませんが、何かの形で協議会だよりの号外など、この学校を見てきたというレポートを、町会を出しているチラシのように、目につくような形で、伝えられたら良いなと思います。

D委員 江戸川小学校について言えば、次回の協議会でDVDなどを使って学校紹介をしていただくことも可能かと思います。江戸川小学校の特色がよく分かります。

B委員 育成会の立場からすると、江戸川小学校、早稲田小学校、鶴巻小学校から学校公開等のお便りはいただいています。ですから、そのようなアピールは現在もできていると思います。

ただ、これはあくまでも在校生の保護者に向けてのお便りなので、たしかに新入生の方がいままでどのくらい（学校公開に）来ているのかわかりません。学校公開中に見に来る方はどのくらいいるのですか。

M委員 学校公開中に見に来る方は少ないです。見に来てくれて、江戸川小学校の子どもたちの様子を見て、お子さんをこの学校に入学させようと決めてくれれば良いのですが、初めから1クラス十数人しかいない学校に入れるのはどうかと思われる方が多いようです。

I委員 先ほどM委員さんが、江戸川小学校に幼稚園がないということも、児童数の減少の要因のひとつだとおっしゃっていました。津久戸幼稚園も4歳児5歳児しかないので、あまり大きく影響しないのかもしれませんが。しかし私は津久戸幼稚園に子どもを通わせていたのですが、子どもは小さいながらも校庭で遊ぶ小学生を見て、この小学校に行くのだと自然に思うところがあると思います、ですから、江戸川小学校に幼稚園がないという環境も考えたうえで、アピール方法には力を入れたいと思いました。やはり幼稚園がないと、未就学児との日常のつながりがないので、それは大きいと思います。

B委員 やはり小学校に幼稚園があるのとないのでは、全然違うと思います。幼稚園で2~3年生活すると友達関係ができるので、どうしても（通学区域の学校を選ばずに）多少遠くても友達と同じ小学校を選んでしまうのだらうと思います。

F委員 江戸川幼稚園は廃園ではなく休園ですよ。どうして幼稚園がなくなったのかというと、保育園に入れる方のほうが多くなったということがあると思います。江戸川幼稚園ではなく津久戸幼稚園を選んでいた方も何名かはいるかもしれませんが、やはりお母さんも働いているご家庭が増えて保育園に流れた傾向があるのだらうと当時思いました。休園になる前年には、何とかなくならないように、私も地域の方をお連れして、江戸川幼稚園に伺ってお手玉をしたりなどしたこともありましたが、そのような流れで減ってしまいました。ですから、幼稚園が併設されていけば良いのかということでもなく、現在は子ども園の話も進んでいますので、できれば子ども園のような形のものができれば、少しは変わってくるかもしれませんね。

A委員 江戸川小学校の児童数を増やすための方法については、具体的に話していく必要があると思います。また、参観については、事務局さんのほうで各校の公開日を確認して、皆様にお伝えしていくという動きをとっていただいて、必要に応じて見に行っていただければと思います。他に何かございますか。

M委員 すみません、先ほどの話に付け加えたいのですが、津久戸小学校は津久戸小学校で特色ある教育をしていると思います。一番心配なのは、この協議会が続いているなかで、子どもたちが、保護者の話などから聞いてくるのだと思うのですが、（津久戸小学校と江戸川小学校で）お互いが仲良くできないような声が聞こえる時があります。子どもたちにそのような感覚を持たせたくないという思いがあります。津久戸小と一緒にあって、もっと両方の子どもが幸せになれるような学校が作れるかもしれないね、だから津久戸小と江戸川小で仲良くしようね、という子どもたちの声が聞こえてくるととても嬉しいのですが、いまのところはそ

うではない方向に行っているので、それをすごく懸念しています。

L委員 まったくM委員さんと同じです。いま子どもたちが置かれている状況として、大人の世界の統廃合の問題は、聞こうと思わなくてもいろいろな場面で子どもの耳に入ってきています。子どもにとってみても、自分の学校がどうなるのか、これからどんなふうこの地域が変わっていくのか、という不安感があると思います。その不安感を持ちながらの状態が長く続くのは、子どもを預かる身として、決して良い状況ではないと思っています。そう考えたときに、残された時間は、そう長くはないだろうと思います。できることはもちろんやらなくてははいけません、このような不安定な状況に子どもたちをいつまでも置いておくことのリスクについてもよく考えていかなければいけないと思います。(統合の問題は)確かに難しい問題ですし、結論を出すためにはいろいろなことを考えなくてははいけません。しかし、我々が一番考えなくてはいけないのは、目の前にいる子どもへの影響や子どもの幸せをまず考えたときにどう考えるか、という視点を持っていくことが、まず大事なのではないかと私は思います。

A委員 そのようなことも含めて、いままで沈黙を守っていたK委員さんから、教育委員会の考えも含めてお話しいただきたいと思います。

K委員 2つお話ししたいと思います。1つは、スケジュールの問題です。いま皆様からいろいろなご意見がありましたが、現在、平成20年度からこの統合の取り組みを始めてから2年半経過しています。それでも私は長すぎるとしています。それは、全体的にこの地域のお子様数が少なくなってきたことや入学率も下がってきていたということがあります。ご指摘にもあったように、特に学校選択制度により拍車をかけた部分もありましたし、統合という話を持ってきたこと自体が拍車をかけた状況になったということは間違いないと思っています。これについては、残念な部分ではありますが、しかし小規模校に統合の話を持っていくと、どうしても避けようのない状況であると思っています。この状況を避けようがないことと考えた場合に、統合するにしても統合しないにしても、なるべく早く、短期間で結論を出していただくことが適切であると思っています。この2年半経過する中で、江戸川小学校の来年度の入学予定者数が2ケタを切ってしまう状況になってしまっています。仮にここで「統合しない」という結論を出したとして、(その広報が)遅れて6月に間に合わなかった場合、平成23年度だけではなく、平成24年度もさらに入学者数が少なくなってしまう恐れがあります。ですから、「統合しない」として江戸川小学校の児童数を増やすということであれば、早い時期に結論を出して、地域にアピールしていくべきだと思います。また、「統合する」という場合にもいろいろな課題はあります。ただそれは、これまでの統合協議会での課題であり、統合するまでの1~2年の間に時間をかけて十分議論をする時間があります。「統合する」と決まった場合でも、即来年に統合するというのではなく、統合の時期は協議会で話し合っていて決めていきます。ですから、どちらにしても結論は早く出していただいたほうが、子どもたちのためにも良いし、江戸川小学校の児童数を確保するためにも良いと思っています。そういう意味では、仮に「統合しない」という結論を出すのであれば、6月に間に合わすと

いうよりも、できるだけ早いほうが良いだろうと思います。

2 つ目ですが、肝心の教育委員会は、今の時点で統合についてどう考えているのかということ。私と副参事は、今年度 4 月に教育委員会に赴任してきました。皆様とはいろいろな意見交換をさせていただき、意見の違いがありながらも 8 月には統合等検討協議会を立ち上げて、本当に皆さん真剣に建設的な議論を進めてきていただいたと思っております。考えの違いのところもありますが、私も頷けることも多かったと思いますし、皆さんそれぞれの不安も理解してきています。

統合の必要性ということについて、教育論をお話しされる方もいらっしゃいます。教育論としては、新宿区では「教育ビジョン」というものを作りまして、いろいろな側面からの教育を考えています。学校適正配置は、いろいろな側面を持つ教育論ということではなく、学校規模が及ぼす教育効果を考えるものです。社会に出るための訓練をする場が学校です。そういう意味では、私たちが皆様に統合の提案をしたのは、社会的訓練をするに足るだけの十分なお子様の数を確保することによって、社会的訓練をできるようにしていく必要があるのではないかということです。その中で、教育委員会は、入学するお子様の数を根拠として話し合いに入っていたのですが、昨年 4 月に人口推計を見たとき、(地域の未就学児数が) 増加する傾向がありました。ただしこれが長期的傾向なのか、短期的傾向なのかを判断することもなかなか難しいということもあります。これまでの江戸川小学校は若干の増加傾向、津久戸小学校は少し大きい増加傾向が、ここ 10 年ほど続いていましたが、特にここ 2~3 年の増加傾向が非常に激しくなっています。今までの緩やかな増加傾向でしたら、私は統合したほうが良いと断言します。しかし、今後もこの 2~3 年の増加傾向が続くのであれば、先ほど皆様をご心配されていたように、逆に過密になってしまうのではないかと、ということがあり得ると思います。実際に統合したときに、仮校舎の際、校庭にプレハブを建てなくてはいけなかもしれない、また市谷小や早稲田小を超える大きな規模の学校になってしまい、ただでさえ一番狭い校地がもっとグラウンドが小さい学校になってしまうかもしれないということが考えられると思います。基礎資料集の資料 3 を見る限り、0 歳児が津久戸小学区域 81 人、江戸川小学区域 52 人で 133 人となり、35 人学級では 4 クラスとなってしまいます。

4 月の時点で未就学児数の増加については注意して見守る必要があると思っていたところ、8 月に国の 35 人学級の動きが急遽出てきました。35 人学級については、昔から議論をされており、全国的には自主的に個別に実施している自治体もあります。35 人学級については、動向が揺れ動いていますが、平成 23 年度については新一年生にのみ導入するという結論が出されました。それに伴い教育委員会としても来年度の教室の対応についての検討を始めているところです。

以上のことから、率直に結論を申し上げますと、教育委員会としては現在の子どもの数の推移を見た中で、統合については見合わせたほうが良いのではないかと考えています。ただし、これについては江戸川小学校からすでに「統合やむなし」の結論をいただいておりますし、なかなか難しい問題であると考えています。この統合等検討協議会の中で、仮に当面統合に

については見送るべきという結論が出るのであれば、教育委員会としては尊重していくべきだと考えています。ただし、統合を見送るにしても、ただ見送ればよいということではなく、来年度以降の江戸川小学校の児童数についての課題が残ります。ですから、もし「統合しない」という結論を出すのであれば、地域の方や学校関係者の方、教育委員会ももちろんですが、力を合わせていろいろな手を尽くして、これから入学するお子さんやご家庭に向けてPRしていく必要があると思っています。実際に「統合しない」と決めれば、全体の子どもの数は増えてきていますので、十分な数のお子様が入学していただけるのではないかと考えています。ですから、先ほど申し上げましたように、「統合する」「統合しない」のどちらの結論になったとしても、協議会で引き続き、江戸川小学校の児童数を増やすために話し合っていくのが良いと思っています。

A委員 ありがとうございます。いまK委員さんから、非常に重要な方向性のお話をいただいたと思います。何かご質問ご意見等がありますか。

E委員 いまのK委員さんのお話を頂戴いたしまして、ありがとうございます。いまK委員さんから児童数が増加傾向にあるというお話があったのでご案内したいのですが、壁に貼ってあるのは、この地区の地図なのですが、保護者の有志でウォーキングがてら地域を歩いて、空き地の調査をいたしました。参考資料として、お手元に地図の資料があると思うのですが、現在私たちの目で確認できたところとして44個の空き地や建設途中のものがありました。いまお話があった児童数増への裏付けになる資料だと思います。壁に貼ってある地図の前に、建設予定地のボードや建物の写真などがファイルされていますので、お時間のある方はご覧いただければと思います。

B委員 資料3では、地域の0歳の数が増えているということでしたが、例えばこれはただ生まれた人数ということであって、ずっと地域に住むという確約はないですね。多少そのところでバラツキがでて、いろいろな理由で転出する方もいます。たしかに増えているのですが、その数がそのまま（将来の児童数に）反映されるとは、私は思えないです。

K委員 その点について少しご説明します。いまB委員さんがおっしゃったとおりなのですが、0歳のお子さんが実際に小学校にあがるときに何人になっているかについては、毎年の年齢別推移を見るとわかります。たとえば、江戸川小学校では、平成14年度の0歳児は65人なのですが、5歳のときには50人になっています。平成15年度の0歳児は47人から36人に減っています。平成18年度は、48人から44人になっています。一方、津久戸小学校は、0歳の時に54人だったのが、小学校入学時には40人に減った年もありますが、逆に43人だったのが59人に増えた年もあります。やはり、転出ということもありますが、新たにマンション等が建つということもあるので一概に言えないこともあります。ただ、平均的には、小学校入学するまでに1割程度減っているということがあります。しかし現在の0歳児の数は、1割程度減れば増えないというレベルの人数ではないと考えています。先ほど申し上げたように、津久戸小と江戸川小の学区の0歳児を足すと、133人います。その数は4クラスの人数です。そしてさらにマンション等が建って転入などで増えると、5クラスにもなりかねま

せん。4クラスでも6学年で24クラスとなり、そんな大きな規模の学校は区内にもないですし、狭い校地に作ることも問題はあるかと思えます。ですから、今後の推移はやってみないとわからないからということで試すのには、リスクが大きすぎると考えており、当面は見守りながら一定の年数は様子を見て、それでも減るといふことならば再度考えますが、その可能性は低いのではないかと考えています。

また、学校選択の傾向として、江戸川小学区域のお子さんが一番多く選択しているのが津久戸小学校です。ところが津久戸小学校の年齢別の人口推計を見ると、現在の教室数にも限界があるので、何かしらの対策は必要になると思えますし、数年後には通学区域外からの選択希望者をたくさん受け入れることができなくなる可能性があります。同じく市谷小も早稲田小も教室数には余裕がありませんので、他校からの選択により受け入れるのが物理的に難しくなるのではないかと考えています。そういう意味で、江戸川小学区域の子どもの数も増えていることに加え、隣接校も学校選択で受け入れる余裕がなくなることを考えると、江戸川小学校に入学する方が増えるのではないかと考えています。

M委員 いま人数の推移についてお話しいただいたのですが、ここ数年を見てみると、学区域に44人いても入学するのが14人、39人いても12人、いまの一年生については37人いても11人となっています。例えば、統合を見送ることになった場合、来年度の一年生がどのくらい入学するかは分かりません。いまのところ入学予定者数は1ケタです。学校も努力しますし、教育委員会も地域の方も、江戸川小学校は良い学校だと言ってくれると思うのですが、それでもそんなに人数が増えないという可能性もあると思います。それが、統合の話がなくなっても、この先も入学者数が増えず、江戸川小学校だけが立ち枯れていくことがないかが心配です。そういうことを心配して、2年前に「統合やむなし」という苦渋の決断を出した時があるわけです。ですから、現在の未就学児が増えているということだけで、隣接校に入れなかった人が江戸川小学校に来るだろう、という考えは危険があると思います。

D委員 何かしらのプラスアルファの対策が必要ということですね。

M委員 はい。制度的な変更や、教育委員会からのアピール等が必要だと思っています。

K委員 おっしゃるとおりだと思います。学校選択制度というのは、保護者の方やお子様に選択肢を増やすことで自由度が高まるということと、学校間で競い合ってもらい、よりよい教育を与えられるようにすることが目的です。なぜこの制度が可能となったかという点、少子化の中で余裕教室が増えてきたからです。学区域外のお子様を受け入れても収容ができる状況でした。ところが、このように子どもの数が増えてきた状況では、学区域外のお子様を物理的に受け入れられなくなる可能性があります。隣接校が受け入れられなくなると、学区域外の学校に（多く）流れる危険性はないと判断しています。絶対ということではないですが、一つの想定の中で、客観的に考えるとそうなるだろうと思っています。また、統合するかしないかという議論をあまり長くするのは良いことではないのではないかと申し上げました。あまりに長引かせてしまうと、いろいろな風評が流れ、悪循環になってしまい、年を追うごとに児童数が減ってきてしまいます。逆に、統合をしないという結論になれば、皆さんで力

を合わせて風評を打ち消していければ良いと思っています。そして教育委員会としてできることは何があるのかということですが、皆さんでご検討いただいて要望をお受けするのも結構ですし、教育委員会としてもできることはしていきたいと考えております。

E委員 江戸川小学校は長年の間、少人数が避けられない状況になっていました。ここで私の夢は膨らむのですが、すぐに人数を増やしていくのは難しいと思うのですが、先日の朝日新聞に、コミュニティースクールの記事が載っていました。地域の方々と学校運営を考えていくというものです。新宿区でも導入されているようですが、たとえばこれは私の想像の中だけの話ですが、江戸川小学校と市谷小学校とで同じ運営形態ではなく、江戸川小学校の費用や教職員の数などのすべての条件を半分にして特区のような学校にし、そこで手厚い教育が受けられるというコミュニティースクールのようなもので作っていくということもできないでしょうか。「項目別課題等想定シート」の中にもありますが、外国語教育に力を入れた、インターナショナルな学校を運営できないかというような提案もあります。そういったことを広報していけば、新宿区に注目を集めることができ、子どもも集めることができるのではないかと、またインターナショナルな学校にすれば中山区長がおっしゃる多文化共生の実現にもつながっていくのではないかと思います。

H委員 夢のような展開になっていて、ドキドキしているのですが、早急に方向性を出さなくてはならないという意味では、もうすでに来年度の新一年生の数が1桁になっています。もし間に合うのであれば、来年度の新一年生を増やすための対策を講じることはできないでしょうか。それを考えられるのは今しかないと思います。たとえば、新一年生が指定校変更を申請できるのが2月半ばまでだと聞いています。ですので、対象者の方に教育委員会さんのほうから、指定校変更の申請期限過ぎても変更が可能なことや、統合対象校ではなくなったことを伝えていただくとか、もしくは保育園や幼稚園の緊急保護者会のようなところで、統合対象校ではなくなったことをお知らせして、もう一度保護者にも（入学する学校を）検討してもらえる時間を与えたりとか、そういうこともできれば違うのではないかと思います。

A委員 まだ（統合の方向性は）決まっていませんので、2月半ばまでに何か動くのは難しいのではないかと思います。いま教育委員会さんから非常に大きな見解が出たという理解はしていますが、ただ、この場では何の意思決定もしていない状態ですので、そのうえで何か来年度の新一年生にできることがあればやっていければよいと思います。

H委員 そうですね。

L委員 子どもを預かる学校の立場としてお話しします。統合を進めるのか、それとも延期するのか、いずれの結論にしても江戸川小学校の抱えている児童数が少ないという問題を解決するための、抜本的な方策を考えていかなければいけないと思います。また、江戸川小も同じだと思いますが、津久戸小も津久戸小で、校舎の老朽化が極めて進んでいます。この先も2クラスずつ増えていくと、普通教室に転用できる教室があと数年でなくなります。教室がないということは、プレハブを作るか、特別教室を再度普通教室に戻すか、というような切羽詰まった問題がこのままの状況を維持すると起こります。（統合の話が出てからの）この3年

間、両校ともに本来ならばあったかもしれないことが統廃合だからという理由でなされてこなかった問題やいろいろな対応があったと思います。協議会で何らかの結論を出した場合、それをきちんとやっていただけるという条件が担保されないと、ただ統合を見送るということでは、子どもの教育環境としてはどちらの学校も厳しくなるだろうと思います。もし統合を見送るという場合には、そういう点も一つの条件として是非教育委員会にも検討していただきたいと思います。「(統合を見送ることに)決めました。あとは皆さんで努力をしてください。」と言われても難しいこともあると思いますので、それを前提に是非考えていただけるとありがたいと思います。

I 委員 いまL委員さんがおっしゃったように、江戸川小学校の児童数が少なくなるとともに、35人学級が段階的に導入されるとなると、(津久戸小学校の教室が)絶対的に足りなくなります。この「項目別課題等想定シート」にもありますが、統合しなかった場合の改善策が色別にされていて、「中長期的には、両校の建て直しを検討する。」というのが黒字で、「対応困難または判断できない」となっています。その上には「短期的には、両校の施設・校舎の改修計画を策定・実施する。」とあって、改修となっているのですが、現実的に普通教室数を増やすのにはある程度の限界があると思います。共通認識の3つ目にもあるように、未就学児が増えている状況があり、それに加えて35人学級が導入になれば、クラス数も増えていきます。津久戸小にしても、校舎のキャパシティの限界があります。一方、江戸川小はまだ余裕があります。そこをうまく調整していくことが大切だと思います。牛込A地区全体にとっても、大規模校にとっても大きな問題だと思うので、35人学級が導入されてからではなく、ある程度先を見据えて、どのくらいが適正な受け入れ児童数なのか、ある程度のパーセンテージで、建物のキャパシティに応じて基本が何人で、通学区域外から何人くらい受け入れるというように、そのくらい具体的に出したほうが良いと思います。前回ゲストスピーカーの菅野さんも、学校ごとにいろいろな違いがあるけれど、ある程度学校間の格差をなくすことが大切とおっしゃっていました。ですので、議論をしていると、どうしても江戸川小学校の児童数の問題の話が大きくなってしまいうのですが、L委員さんがおっしゃった津久戸小学校の校舎のキャパシティの問題も大きいと思います。K委員さんのお考えは、大きな意味でもよく分かったので、だとしたら、私たちPTAや地域にはできないこと、先のことを考えることができるのは教育委員会なので、それについての議論を深めて、6月には方向性を示せれば効果があると思います。やはりM委員さんがおっしゃったように、開けてみたら児童が集まらなかったというのが一番の心配だと思うので、具体的に話を詰めていったほうが良いと思います。

F 委員 私が心配していることも同じことです。いままで長年地域に住んできて、地域の様子を見てきました。おそらく先ほどK委員さんがおっしゃったのは、例えば、今まで早稲田小学校は3クラス募集をしてきたけれど、35人学級が導入されるとそれ以上は募集できないという形になり、それぞれの学校が同じように、大きな学校では今までと同じくらい通学区以外から受け入れてしまうと、35人学級の場合4クラスになってしまい、それは校舎のキャパシ

ティの問題から受け入れることができなくなる。そのようなことから、自然に学校選択制の形が少しずつ崩れていくというか、通学区域外の学校を選択しようと思っても選択できない状況になるため、江戸川小学校に児童が戻ってくるのではないかと、というお考えなのだと思います。しかし、この場で教育委員会のはっきりした見解はおっしゃることはできないのは分かりますが、学校選択制をなくすということではなく、地域によっては学校選択制を見直すとか、例えば早稲田小学校は校舎のキャパシティの限界から学校選択制でこれだけしか受け入れないなど、何か具体的な策を示していただきたいと思います。そうしないと、保護者も納得できないと思いますし、いままで統合するような方向できたものが、ここにきて 35 人学級になるから、子どもが増えてきたからといって、早々に判断するには苦渋の選択なのです。私たちからすると、どう結論を出せばよいのか、という思いがあるのです。35 人学級や子どもの増加ということだけで、統合を見送ると簡単に判断できる問題ではないと思うのです。そのような理由で統合を見送ると考えるのであれば、もう少し教育委員会の具体策を示していただいて、皆さんが納得するものを出していただきたいと思います。これから考える中で、やはり統合が必要なのではないかと思う問題も出てくるかもしれません。ですからもう少し教育委員会の見解を具体的に言っていたほうが皆さんも分かると思います。その中で、やはり江戸川小学校だけでなく、津久戸小学校の問題も捉えて、結論は早めに出さなくてはいけないと思っております。また、新宿区にお金がたくさんあって、簡単に建て替えられれば良いですし、校地がもう少し広くて仮校舎も建てられるようならいいのかもしれませんが、難しい状況です。現在教育委員会で実施している学校選択制のアンケート結果はまだ出ないのでしょうか。

K 委員 まず学校選択制度についてですが、先ほど申し上げた学校選択制度の趣旨から、廃止するという事は考えておりません。ただ、実際に物理的な限界が出てきたということがあります。いままではどこの学校も余裕教室があったので、どこの学校も学校選択により通学区域外からお子さんを受け入れることができている。それができない学校が出てきそうであるという状況により、江戸川小学校の児童数が増えるであろうと考えているところです。また、学校選択制度（の見直し）についてはどう考えているかということですが、直接的には学校選択制度が大きな比重を持っているとは思っていないのですが、個別に検討する余地はあると考えています。ただ、具体的にどこをどう見直すのが適切かということについてはすぐに出すことができるものではありません。昨年実施した学校選択制度のアンケートについては、2 月に調査報告書が出るとお話ししているところですが、その結果も踏まえて具体的な検討をしていくことになると考えています。

E 委員 質問が 2 つあります。来年度の新入生が早稲田小学校と市谷小学校では 120 名募集を行っていましたが、その後 35 人学級の導入が決まりました。その 2 校の教室数は足りているのか、その対応はどのようにするのか、というのが 1 点目です。

2 点目は、統合等検討協議会では、学校適正配置担当の下で進められているので、ある程度の限界があると思います。私の認識では、学校運営について考える課は学校運営課なので

はないかと思っているのですが、例えばこの協議会において、結論が出た後にも学校づくりについても話していけるのか、例えばメンバーはほとんど同じで違う協議会の形でも、未来の学校のために江戸川小学校の少人数化をどのように食い止めていけば良いのかということをお聞きしたいと思っております。

K委員 1 点目の早稲田小や市谷小の教室数が足りるのかということですが、早稲田小も市谷小も3学級編制という前提で募集をしているので、足りなくなるということはありません。(35人学級編制における3学級の) その範囲での繰り上げはしないということになります。

2 点目の協議会での結論が出た後についてですが、もし「統合を見送る」という方向にお決めになるのであれば、江戸川小学校の児童数についても皆さんで話し合っただけであれば結構だと思います。このメンバーでやっても良いですし、他の形態が良いというご意見もあるかもしれません。

E委員 1 点目の質問について、私の説明が悪かったのかもしれないのですが、(早稲田小や市谷小の) 来年度の新一年生として募集した120名は40人学級×3クラスだと思うのですが、35人学級になった場合の来年度の新一年生への対応はどのようになされているのでしょうか。

K委員 通常、入学される前に、相当のお子様の数が、私立などに行ってしまいますので、実際に人数が落ち込んでいくこととなります。ですから、補欠を繰り上げるのをそこで抑えるという形になります。したがって、3クラスで収まると考えております。

B委員 どちらの結論になるかは分かりませんが、もし「統合する」と決まって、新校舎を建設するとなった場合に、35人学級が導入されてクラス数が増えたときに、新校舎を4階、5階建てにしなくてはいけないと思うのですが、それについてはどうなのですか。

K委員 今までのお話にも出てきましたが、津久戸小学校も江戸川小学校も古い建物です。ただ、耐震補強をしていますので、5年10年で使えなくなるということはありません。ただ、相当古くなっているということもありますので、そんなに遠くない将来に建て替えが必要な時期も来ると思います。

A委員 B委員さんがおっしゃったのは、新校舎に建て替えた場合のことですね。

B委員 (児童数の増加や35人学級により) 学級数が増えたことも考え、新校舎を建てるときは建築をしてもらわなくてはならないですね。ですから、そのような対応をしてもらえるのかどうかをお聞きしたいです。

K委員 子どもが増えた場合に入りきらなかった場合には、それはその建物で対応するしかありません。また、いろいろな選択肢はあると思います。たとえば、通学区域の線を引くというご提案もありましたが、それぞれの解決案も課題を持っていますので、どのような方策をとるかは具体的な検討が必要になると思います。いずれにしても、通学区域内のお子様を受け入れられないまま放っておくということはありません。

A委員 間もなく終了予定の20時半となりますので、まとめていきたいと思っております。先ほど、前半にお話ししていたスケジュールについては、概ね皆様の合意がありました。その中で、K委員さんからのお話もありました。今後の進め方について何かご意見等があればお願いし

ます。

D委員 協議会で方向性を出すのであれば、その前にPTA総会でPTAとしての意思の確認をしておく必要があります。その際に、書面で協議会としての原案があると、PTAとしても意思の確認をしやすいと思います。

F委員 ということは、協議会において、どちらかに意思決定をしたうえで、PTA総会に諮るということですか。今日の段階では、まだどちらに決まったとも言い切れないわけですから、「統合する」と決めた場合と、「統合しない」と決めた場合の、2つの場合を作ることになるのですか。

D委員 やり方はいろいろあると思いますが、今日のお話を伺っている中で、私個人の意見を言わせていただければ、この協議会での決定が「とりあえず」という性格のものではなく、この先10年間後悔しないで済む決定にしないといけないと思います。今後のPTAや今後の校長先生方にも迷惑をかけないために、安心感のある仕組み作りまで含めて議論し、「統合する」「統合しない」のどちらかの方向性を決めるのが良いと考えます。

A委員 スケジュールについては、江戸川小学校の切実な児童数の問題を考えると、できるだけ早期に結論を出す必要があるという一方で、議論はまだ足りていないという気もしています。ですので、協議会という場になるか、そうではなく必要に応じた方にお集まりいただくか、どのような形になるかは分かりませんが、次回の協議会までの間に議論を進めながら、次回の協議会には、どちらの方向性にするかということも含めて、協議会としての意見を作っていくという形が良いのでしょうか。この先については、どうなるのか全く分かりませんが、2月の協議会にはもう少し踏み込んだ内容にして、保護者に説明できるような状態にするために、次回2月の協議会までの間に、意見交換の場を設定し、もう少し詰めていくのが良いのではないかと感じていますが、いかがでしょうか。

B委員 もう少し意見交換の場は必要だと思います。

A委員 教育委員会のK委員さんから出たお話は、非常に重いものだと思いますし、それに対し受けなくてはいけないとは思いつつも、今日の議論がここで終始しているのは、教育委員会さんのご覚悟が我々にはまだ伝わってこないという部分があるのではないかと個人的な意見として持っています。それが伝わらないと、例えば「統合をしない」と決めたとして、この先の10年間に、ここ何年間の思いを他の人にさせたくないという思いも強く持っていますので、まだ判断することが難しいと思っています。そこについては、(話し合い等の中で)いくつかの意見やヒントは出ていると思います。それを踏まえて、教育委員会さんとしても、そうならばこうだ、こういうことまでするからこうだ、我々としての提案もこうする、ということ全部踏まえての合意の案ができてくるのが良いのではないかと思います。教育委員会さんの対応がどこまでできるのかということが決まらない限りは、白黒をつけることを先行させるのは危険だというのが今日の議論の一つのポイントだと思います。ですので、皆様お忙しい中恐縮ですが、議論を深める作業をしていきたいと思っています。

F委員 そうですね。やはりこういう話はきちんとしておかなくてはいけないと思いますし、P

PTAの運営にも差し支えるとも思います。PTAの中で、統合についてしたほうがよい、しないほうがよい、という中で、子どもも親御さんも揺れ動いていて、皆さん良い気持ちをしていないと思うのです。地域の中でもそのような声が聞こえてくるくらいです。ですから、本当にみんなが良かったと思える形にしたいと思いますし、PTA総会に出すにもある程度の文書にしてまとめないといけないのだと思います。今日はそこまではできませんでしたが、もしよろしければ、この間の懇親会のような形で皆さんにお集まりいただいて、お話するのが良いかと思ひます、その中で、共通理解のもとに、PTA総会に出す文書をどのようなものにするかということも含めて、考えていきたいと思ひます。教育委員会のほうから、統合を見送るというようなお話がありましたが、それならそうしようと拙速に決めるのもどうかという気もします。ですから、できましたら次の協議会までに、最低1回くらいはお集まりいただいて、もう少し協議を深めていくことにしたらどうでしょうか。それでも合意形成はできないかもしれませんが、もう少し話し合ったらどうかと思ひます。

D委員 私も時間の許す限り議論ができれば良いと思ひます。

F委員 江戸川小学校の児童数のことを考えると、長引かせることは良くないという思ひは皆様の中にもあると思ひますので、2月の協議会までの間に、もう一度お集まりいただいて、議論できればと思ひます。

A委員 それでは、意見集約や会議体の持ち方等は、事務局さんのほうにお任せします。K委員さんのお話も踏まえたくうえで、意見集約をしながら、もう一度2月の協議会までに話し合いの場を持って、次回の協議会を迎えるということについては、皆さんご異論はないと考えております。

最後にスケジュールについてですが、今日の議論では、早期に結論が出たとしても、その先についても検討していくべき課題があるだろうということですので、少なくとも月1回の協議会はここしばらく続けていくのだろうという気がしています。私の勝手な意見としては、資料には第10回までの日程案が出ていますので、この場で一旦は第10回までの日程を皆さんにご承認いただいたうえで、あとは必要に応じて進めていきたいと思ひています。まずは日程についての合意をいただきたいのですが、第10回まで第三木曜日に入れさせていただいてよろしいでしょうか。

一同 (同意)

A委員 また変更があれば、その都度協議し直せばよいと思ひますので、一旦第10回までの日程について合意いただいたということにしたいと思ひます。終了予定時間がだいぶ過ぎていますが、何かございますか。

事務局 いまのお話では、事務局が文書を作らなくてはいけないのだと思ひますが、その作り方について、この場で方向だけでも決めていただきたいと思ひます。作り方としては3種類あると思ひます。1つは課題や解決策等を含めて「統合した場合」を表にして作る、2つ目は同じように「統合しなかった場合」を表にして作る、そして3つ目は「統合した場合」と「統合しなかった場合」の両方を作る、ということだと思ひます。3つ目については、「課

題等想定シート」において)すでにできていると思いますので、どちらかに特化した形で作らせていただきたいと思います。協議会の意思決定は総意ですので、どちらかの案で了承が得られれば、PTAの手続きに入れるかと思います。反対に、了承が得られなかった場合には、もう片方の案を出して話し合ってくださいという流れになるのかと思います。前置きが長くなってしまいましたが、事務局として「統合した場合」の案を作るのか、「統合しない場合」の案を作るのかを決めていただければと思います。

A委員 文書案を作るにあたっての方向性を決めてほしいということですか。皆さんはいかがですか。いま事務局さんがおっしゃったように、それで決まらなければ次にという話ではあるので、議論を明確にしていくにはどちらかにして進めるというのも手ではあると思います。

D委員 K委員さんからご示唆があったので、まず「統合は見送る」という方向で案を作ってくださいだと思います。そして、その場合にはどのような課題があって、どのような対応策があるのかをまとめていただけたら良いと思います。

A委員 スピード感からすると、そのほうがうまくいったら早いということですね。

B委員 先ほどの話にもありましたが、今回結論を出して、10年後にまた統合の話が出てきてしまったら、なんであの時決めなかったんだという話になりかねません。ですから、結論については、きちんと話し合ったうえで決めないといけないと思います。このような話し合いを今後2度も3度もやるわけにはいかないと思います。

F委員 そうですね。ただ、今後の子どもの推移や30人学級などが持ち上がった時に、いつかは絶対このような話が出てくると思うのです。それをできるだけ長いスパンで保てるようにしたいと思います。例えば統合しなくても、2~3年でまたこの話が持ち上がるというのではなく、どうすれば子どもが増えるか、教育委員会とも話を詰めて、教育委員会にも決断していただかなくてはいけないこともたくさん出てくると思います。絶対にこの先も人口が増え続けなければ良いですが、変動はあると思いますので、そのときにまた統合の話が出てくるだろうと思います。また校長先生がおっしゃったように、校舎の老朽化の問題もあります。建て直す必要が出てきたときも、そのままでよいのか、あるいはより良い教育環境を整えるために新校舎を建てて一緒になったほうが良いのか、今のまま2つの学校を建て直すのか、というように、今回の問題が出てくるのだと思います。ですから、今回、統合しないという方向に進んでも、この問題が直近に出てくることのないようにしていかななくてはならないと思います。

D委員 そう思います。そして、もし仮にそれができないのであれば、私どもも2年前にPTAの先輩たちが「統合やむなし」の苦渋の決断をしているわけですから、その意見を尊重せざるをえないと思います。2年後だけでなく、5年後も、10年後も同じ心配をしなくていいような安心感をどのようにして確保するのが課題です。

事務局 作業をするにあたって、もう一度公の場所で確認させていただきます。「統合しない」場合の文書を取りあえず作ってみるというご意見がありましたので、それは作ります。ただし、ひとまず案を作るということであって、今日この段階で「統合しない」という方向性が出た

ということでは決してなく、単に議論をするための案を作るということで、方向性の部分と案を作ることについては分けて考えるということによろしいですか。

F委員 皆さんのご意見は、そういう形でしたので、それで良いのではないのでしょうか。皆さんいかがですか。

一同 (同意)

F委員 あくまで今日は決定事項はなかったということですね。

A委員 それでは、事務局さんがおっしゃったような形で、文書のたたき台を作っていただくということで本日は終わりにしたいと思います。

長時間になりましたが、これで第6回統合等検討協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

(20:50 終了)